河川の床固めに広く施行される粗朶沈床。粗朶沈床を陸上で制作し、大型クレーンで一挙に川に浮かべる

❶若月建設に近い新発田市赤谷にある粗朶山。巨木を伐採するのと違い、ナラ、ホオノキ、クリ、モミジなど落葉広葉樹の幹や枝を束ねていく。粗朶は昔話の「シバ刈り」のシバにあたる　❷昭和30年代から若月建設で粗朶作りをしている二瓶峯雄さんは80歳

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine vol.5

林業事業体レポート ▶ File 02

若月建設株式会社

新発田市

❶粗朶沈床は明治初期にオランダから日本に伝えられた。「柵掻き（しがらがき）」と呼ばれる組み立て作業はすべて手作業で行われる　❷結束台で長さをそろえた粗朶を結束することを「粗朶束（まるけ）」という　❸葉が落ちてから芽吹く前に木を切ると品質が向上し、良くしなる粗朶ができる

全国・世界へ、未来へつなぐ伝統工法「粗朶沈床」

「粗朶」（そだ）とは落葉広葉樹の枝と幹を束ねたもので、粗朶を束ねて格子に組んで石を詰め込み、川底に沈める治水工事を粗朶沈床という。コンクリートブロックを使う工法に比べ、自然素材を使う粗朶沈床は川床への馴染みやすさや安全面でメリットが大きい。また、粗朶は数年経つと川床に追随し、同化するものである。生態系を守る環境保全の面からも近年、注目を集めている。

若月建設は4代続く"粗朶屋"。現在、取締役の若月学さんが地元に帰ってきた頃の河川工法はコンクリートが主体。粗朶がなくなる危機感を感じた社長が昭和58年に「新潟県粗朶業協同組合」を設立した。現在は全国各地へと粗朶施工に赴く中、海外で粗朶工法の指導も行う。「途上国に粗朶工法の技術を教えることは大きな喜びです。林業をもっと夢や喜びのある産業に変えていきたい」と若月さん。

粗朶沈床の取り組みは、川の生態系を確保し、粗朶山として利用される山も活性化。このような形で人と自然が共生する環境を提供する林業の存在をぜひ知ってほしい。

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

黒井孝さん

Kuroi takashi

［53歳　林業経験14年目］

粗朶のような縁の下の力持ちに

以前は建設会社で土木関係の仕事をしていて、入社して初めて粗朶沈床を知りました。今は土木事業と粗朶沈床の現場監督や作業の段取りを担当しています。ラオスにも技術指導に行ってきました。粗朶沈床は川底に沈められるので一目につかないけれど自然を守りつつ、しっかりと川底を支えているのが魅力だと思います。私もそんな縁の下の力持ちのような存在になれたらいいですね。

肥田野彰智さん

Hidano akitomo

［34歳　林業経験4年目］

充実感をもって働けます

自然が好きで、趣味は山登りとスキー。サービス業で働いていましたが、自然の中で働ける仕事を探していたときに、林業就業支援講習を受けました。現場で汗をかいて働く、今の仕事はとても達成感があります。自然の中で働いていると人間らしい生活をしている気がしますよね。今後は森林施業プランナーをはじめ、林業の資格を取得し、幅広い仕事ができるようになりたいです。

事業体Data

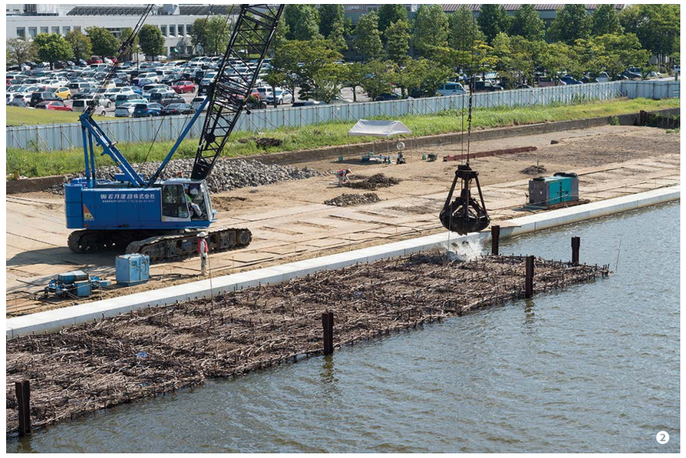
若月建設株式会社

住所／新発田市小戸886-1 電話／0254-31-4111
設立／平成6年　資本金／2千万円
従業員数／18人(森林部門15人)
勤務時間／8:00～17:00　主な勤務地／新発田市
主な従事業務内容／粗朶の生産及び販売・粗朶工法の施工、土木事業

事業主コメント

若月建設株式会社　取締役 若月 学さん

平成８年に多自然型川づくりが建設省（現国土交通省）から全国通達され、粗朶沈床が見直されてきました。山で作られた粗朶が都市の中に生きていて、人々の生活を支えていることを多くの人に知ってほしい。今後も環境をキーワードに地域密着型で自立できる林業、付加価値の高い林業を目指します。



❶粗朶の中に仕掛けておいたワイヤーを引っ掛けて大型クレーンで吊り込む　❷粗朶を沈設していく。二日間で７枚の粗朶を組み立て、水深2.8メートルの場所に沈めた　❸沈設後は、粗朶が浮いてこないように沈石を投入